

シンポジウム

主催者挨拶 中村 利雄 イベント学会会長



13:00

1. 基調セッション【45分】

はじまりの奈良～有形と無形の豊かな文化融合～

2003年のユネスコ無形文化遺産保護条約の制定は、無形文化財の重要性を世界が確認した瞬間であった。奈良に存する有形文化財には千三百年前から「祈り」が生き続けており、無形文化を産み出し、また生かしながら続けている。過去の経緯を踏まえて、無形文化財が有形文化財と同様に人類にとって重要なものであることを日本・国際社会に伝えていく。

パネリスト



岩本 渉
アジア太平洋無形文化遺産
研究センター 前所長



本中 眞
奈良文化財研究所
所長



川井 徳子
公益社団法人ソーシャル・
サイエンス・ラボ専務理事

13:10

2. テーマセッション(1)【50分】

杜の都を、つくり続ける奈良

世界でも類を見ない伝統建築のフィールド・ミュージアムと言う視点から奈良を考察する。仏教伝来とともに日本に伝わった高度な建築の技術は藤原京・平城京建設の中で変貌を遂げ現在の奈良に脈々と息づいている。歴史と共にある世界的にも稀有な奈良県の建造物の魅力・価値を未来へとつなぐ手立てを語り合う。

パネリスト



三井所 清典
日本建築士会連合会
名誉会長



藤田 盟児
奈良女子大学
工学部長



後藤 治
工学院大学 理事長

モデレーター

14:00

3. 特別セッション【35分】

はじまりの奈良～未来への提言～



山下 眞
奈良県知事

奈良教育大学でESDを学ぶ詩吟日本一の学生と仏像の美に魅せられた学生が有形と無形の文化遺産の融合から生まれ・見えてくる奈良の魅力、その観光資源としての価値について知事と語り合う。かつてフェノロサが語った「奈良は東洋のローマである」という言葉の意味が浮かび上がる。

奈良教育大学ユネスコクラブ 奈良女子高校SDGsチーム
(企画・監修/奈良教育大学ESD・SDGsセンター)

14:50

休憩【15分】

15:05

4. テーマセッション(2)【55分】

みんなの幸せを、祈り続ける奈良

神仏習合の祈りが人々の心に息づく聖地・奈良という定義から、仏教伝来による国内騒乱を経て、神と仏が共にある稀有な場所が奈良に生まれた。それぞれの時代の人々は何を神仏に祈り続けたのか、また人々の祈りの普遍性をSDGsの視点から紐解いていく。

パネリスト



岡本 彰夫
春日大社
元権宮司



上司 永照
華厳宗大本山・東大寺
執事長



簾内 佐斗司
奈良県立美術館
館長



中澤 静男
奈良教育大学
ESD・SDGsセンター長

モデレーター

15:45

5. 総括セッション【30分】

さあ!始めよう、新・はじまりの奈良



福井 昌平
「関西・歴史文化首都フォーラム」
推進委員会座長・イベント学会副会長



中澤 静男
奈良教育大学
ESD・SDGsセンター長



川井 徳子
公益社団法人ソーシャル・
サイエンス・ラボ専務理事

モデレーター

16:45

17:15

シンポジウム終了

交流会 「はじまりのNARA 言葉と食の聖地巡礼」

6. トークセッション【30分】

うまさけ 味酒の国 大和 万葉の酒を巡って

まったく異なる言語体系の文字であった漢字を用いて、古代日本語の歌を書き記した現存最古の歌集『万葉集』。大神神社のある「三輪」の枕詞として「味酒(うまさけ)」と記されているように、酒は古来神事と密接に結びついていたと考えられる。神に捧げられた酒は神と人をつなぐものとして尊ばれ、宴においては人と人をつなぐものとして生活の中に浸透した。「酒」を軸に古代日本の言葉と食の文化を語るトークショーとともに、古代文化が現代に息づく、吉野和紙・墨・筆・書道等のアート作品のインスタレーションを開催。



井上 さやか
奈良県立万葉文化館
企画・研究係長



逢香
妖怪書家・書家

17:30

7. 懇親会【60分】

世界遺産で乾杯

世界で話題の“和食”。それに次いで“伝統的醸造り”もユネスコ無形文化遺産登録を目指している。それらすべてが奈良発祥である。フォーラムのフィナーレは、日本の食のルーツをたどり、学ぶことで、日本や和食・日本酒への理解や関心をより深め、食文化の発展へとつなげる懇親会を開催。

- ・奈良酒の試飲と蔵元との交流/奈良県酒造組合
- ・奈良にルーツがある食材等を使ったお料理(おつまみ)の試食(懐石料理 紀仙 若主人 江口直樹 氏)
- ・「めっちゃ抹茶奈良フォトコンテスト」入賞者発表



18:00

19:00

交流会終了